

営業車両に搭載可能な軌道検測装置

[慣性正矢軌道検測装置]

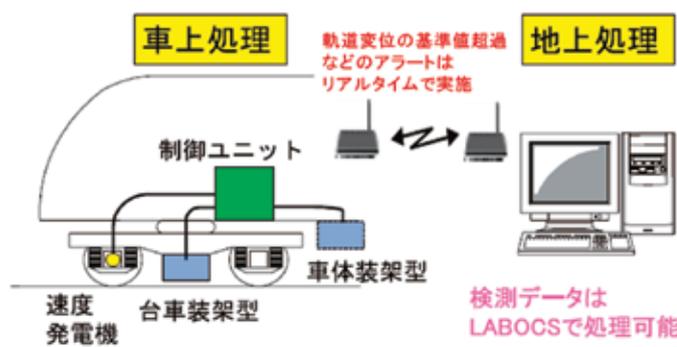
軌道技術研究部

営業車両を利用して日々の軌道状態を把握できます

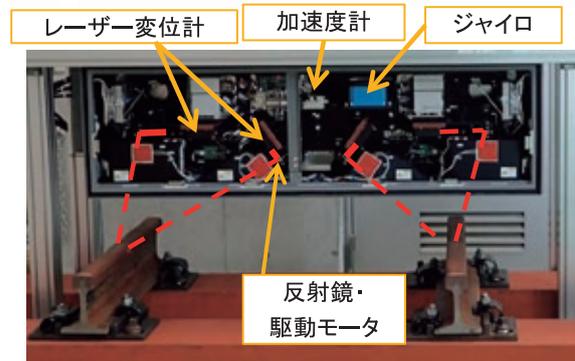
車両の走行安全性や乗り心地を維持・向上するためには、軌道変位（軌道の形状）の状態を把握することが重要です。従来は、軌道変位を専用の軌道検測車により、在来線では数ヶ月に1回、新幹線では10日に1回程度測定していますが、営業車両の床下に搭載して軌道検測可能な軌道検測装置を開発し、日々の測定を可能としました。

【特徴】

- 本装置の検測ユニットは、路線の軌間や取付車両の構造等に応じて、標準軌用と狭軌用、台車装架型と車体装架型を選択できます。
- 営業車両の床下に搭載することにより、日々の軌道変位の状態を把握できるため、軌道の維持・管理の効率化や信頼性向上に活用できます。
- 本装置を用いて軌道検測の頻度を高めることにより、軌道変位の時間的な変化を詳細に把握できるため、従来より軌道状態や軌道変位の診断、将来予測の各精度を高められます。



検測装置の構成と検測データの流れ



慣性正矢軌道検測装置の検測ユニット内部の構成

台車装架型装置
JR九州 九州新幹線(2009年8月～)



車体装架型装置
JR東日本 在来線(2018年7月～)

●線路設備モニタリング装置の軌道変位モニタリング装置として



実用例

構造物・防災

軌道

電気

車両

運輸

教育・訓練